



水道トピックス

TEL 04-2964-1111

http://www.city.iruma.saitama.jp/sumai_kurashi/jyosuido/index.html

VOL.10(平成20年)

発行日：平成20年11月15日

発行：入間市水道部

◆水づくりの現場を訪ねて【PTA家庭教育学級の取組み】



利き水の様子

10月2日(木)西武中学校のPTA家庭教育学級、成人厚生委員会の皆さん14名の方が鍵山浄水場を見学に訪れました。

はじめに、入間市の水道施設の概要説明、次に浄水処理施設と中央監視室の見学を行いました。最後に、A(県水)B(鍵山浄水場の水)C(ペットボトル水)三種類に分けた水のおいしさを利き比べて、どの水が1番おいしかったかの投票を行いました。

利き水投票結果

区分	人数
A(県営水道の水)	4名
B(鍵山浄水場の水)	6名
C(ペットボトル水)	4名

鍵山浄水場の水が6票と、県水、ペットボトルの水の各4票をおさえ一番おいしいという評価をいただきました。



施設概要説明の様子

参加者全員に環境に配慮し、水の大切さをPRするために作成したエコバックを、見学の記念にお配りしました。



エコバック配布の様子



水道水を飲もう!

皆さんは一日にどのくらい水道水を飲みますか?

内閣府が平成20年6月に実施した「水に関する世論調査」によると、38%が水道水をそのまま飲んでいる、30%がペットボトル水を購入しているという結果となり、ペットボトル水の飲用が新しいライフスタイルとして定着している状況が見受けられます。

水道部では、水質の向上により安全でおいしい水道水を供給するため、次のような取り組みを行っています。

- 鍵山浄水場に高度浄水処理システムの導入(カビ臭さやカルキ臭をほぼ完全に取り除くことができます)
- 水質検査を定期的実施(検査結果はホームページに掲載しています)
- 老朽化した管の布設替えや施設の適切な維持管理

◆水道審議会を傍聴してみませんか



8月に開催した水道審議会の様子

○水道審議会とは

入間市水道審議会は、昭和52年に水道事業の合理的な管理運営及び事業の適正化を図るため設置されました。

○入間市水道ビジョンの策定

市長は、入間市の水道施設を効率的に維持管理し、計画的に更新することを基本に、施設の整理・統合、送水管や重要幹線の耐震化、老朽管の更新などの取り組みを限られた財源の中で進めていかなければならない状況にあることから、長期的な計画であり、今後10年間の水道事業運営の指針となる「入間市水道ビジョン」を平成21年度末までに策定できるよう審議を依頼し、意見を求めるため諮問をしました。

○今年度の水道審議会

今年度はすでに5月と8月に開催し、来年2月までに計4回の開催を予定しています。5月は、市長から諮問のあった水道ビジョンの策定について諮問するとともに、「水道事業会計予算の概要」などを、8月は、「水道ビジョンの策定について」を協議しました。

水道審議会の傍聴は、10名まで可能です。傍聴の申込み方法は入間市のホームページに掲載しますのでご参照下さい。

また、入間市のホームページには、水道審議会の会議録や詳細を掲載しています。

水道審議会 委員名簿

水道審議会委員は、市議会委員・知識経験者水道使用者の計15名で構成されています。

会長：村上哲司	副会長：難波 博	
委員：鯉坂千代子	上野真人	上原正明
大熊富子	片山 卓	金澤秀信
久保増枝	高石直美	友山信夫
中村 忠	二ノ宮小百合	橋本一郎
不破隆夫	(五十音順)	

今後の水道審議会日程と内容

平成20年11月26日
議題：今後の運営・管理、将来像や目標について
平成21年2月
議題：施設整備や運営管理の施策について
平成21年5月
議題：財政計画について
平成21年8月
議題：水道ビジョン原案について
平成21年10月
議題：入間市水道ビジョンの策定について
(答申)

水道審議会 会長 村上 哲司さんからのメッセージ



市民の皆様には、日頃から本市の水道事業にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

水道事業は、安全な水の供給の確保や、災害に強い安定給水が求められるとともに、運営基盤の強化や技術力の確保等が必要になっています。また、効率的・効果的な事業運営の視点が今日必要とされています。

こうした現状と課題を踏まえ、本市の水道事業が今後、如何にあるべきかについて、市長からの諮問を受け、水道審議会にて審議を開始し、その結果を「入間市水道ビジョン」としてまとめる予定となっております。市民の皆様、なお一層のご理解を賜りますようよろしくお願い致します。

◆ダムを見学に行こう！【親子ダム施設見学会レポート】

水道部では毎年、「上下流交流事業」の一環として「親子ダム施設見学会」を実施しています。この見学会は、社会の時間に水道について学ぶ小学4年生の親子を対象に行われます。今年も抽選により20組の方が8月2日(土)日帰りで、鍵山浄水場と群馬県境にある下久保ダムの2ヶ所を見学し、近くの城峯公園で治水のための植樹をしました。



鍵山浄水場の見学



下久保ダムの見学

鍵山浄水場で、入間市の水道や施設の概要について説明し、鍵山浄水場でつくった水の試飲も行いました。下久保ダムでは、水の循環やダムの役割の説明のあと、普段は入ることの出来ないダムの内部を見学しました。城峯公園の植樹では、親子の名前を記入したプレートを取付け、水を育むお手伝いをしました。

参加者の皆さんから「水を大切に使いたい」「勉強になった」などの感想をいただきました。

親子ダム施設見学会は、来年度も実施する予定としています。

水は限りある資源です。皆さんも「ダム」を訪れ水について考えてみてはいかがでしょうか？

◆水道事業の現状と課題について

○これからの組織体制

今後の水道事業は、拡張の時代から維持管理の時代に移っていくことから、これらに対応できる組織体制を整備していく必要があります。

○水の需要

平成19年度の年間配水量は17,699,486 m^3 （一日平均配水量48,359 m^3 ）で、前年度に比べ、配水量で475,302 m^3 、率で2.62%減少しています。一般家庭における使用水量は、節水意識の浸透、節水型機器の普及、核家族化や共働きの増加、ボトル飲料水の普及などにより減少し、平成19年度の水道料金収入は28億3,578万7,801円で、事業収益全体の約90.72%を占めていますが、前年度より約700万円減少しています。この水道料金の減少傾向は平成17年度から続いています。

○施設の整備、維持管理

入間市は起伏のある地形のため、加圧中心の配水方式となっています。このため、県水も加圧ポンプ方式により配水しており、配水場を補助する配水池や加圧場もあり、施設を維持する設備は複雑になっています。このようななか、災害に強い施設づくりに向け、浄水施設や配水施設の耐震化が求められ、また、耐用年数を経過した配水管の更新も計画的に進めていく必要もあります。

厚生労働省は、平成20年度までに地域水道ビジョンを策定するよう全国の自治体に要請しており、入間市は、水道審議会と連携しながら、平成21年度末までに「入間市水道ビジョン」を策定することとしています。

○今後の経営

県企業局は、平成19年8月に県水の料金算定期間である平成20年度から平成22年度までの3年間についても現行の61.78円/ m^3 で据え置くことを決めています。平成20年2月発行の経営レポートでは、今後の収支見通しについて、大久保浄水場の沈砂池や滝沢ダム等の大規模施設の稼働に伴い、資本費（減価償却費、支払利息）が増加するため、収支が悪化していくことが予想されるとしています。

そして、今後、昭和30年代から40年代にかけて建設した施設が、更新や再構築の時期を迎えており、施設更新のための財源確保や水需要の低迷による料金収入の伸び悩みから、厳しい経営環境が続くことが予想されます。

平成19年度水道事業会計の決算報告

平成19年度の決算は、受水費など費用の減額により、おおむね良好な状況で推移しました。しかし、長期的には、水道料金など収益の伸びが期待できない中、支出面では、耐震化を含めた老朽管の更新工事などが見込まれることから厳しい経営環境が予想されます。

○業務量

給水状況については、平成19年度末で給水戸数が60,933戸、給水人口が149,820人となり、前年度に比べ戸数で745戸、人口で120人増加しました。また、年間の総配水量は約17,700千m³、水道料金等収入の対象となった水量はこのうちの約16,839千m³で総配水量の95.14%（「有収率」といいます。）になりました。

事業については、継続事業として実施してきた東金子配水場の改修工事が完了しました。

○収入

水道事業の収益の根幹である水道料金は、約27億円で前年度に比べ約700万円の減収、収益全体では、約29億8,000万円で前年度に比べ約1,300万円の減収となりました。

○支出

費用は、全体で約26億8,000万円、前年度に比べ約8,600万円の減少となりました。内訳では、県営水道からの水の仕入代金である受水費が約9億2,600万円で費用全体の34.5%を占めていますが、平成19年度から鍵山浄水場の稼働により、約1億8,900万円の減少となりました。減価償却費も鍵山浄水場の完成により約1億1,000万円の増加となり、7億2,500万円と費用全体の27.1%を占めました。自己水の割合は、15.3%でした。

○利益及び借入

収益から差し引いた結果、約3億円の利益を計上することができました。

なお、企業債の借入残高は、補償金が免除（本来支払うべき利息が免除される制度）となる繰上償還が認められたことにより、約46億4,600万円となりました。

	平成18年度	平成19年度
収 益	29億9,300万円	29億8,000万円
給 水 収 益 (水道料金)	27億700万円	27億円
そ の 他 の 収 益 (水道利用 加入金等)	2億8,600万円	2億8,000万円
費 用	27億6,600万円	26億8,000万円
受 水 費	11億1,500万円	9億2,600万円
減 価 償 却 費	6億1,500万円	7億2,500万円
職 員 給 与 費	2億8,900万円	2億6,300万円
委 託 料	2億8,100万円	2億9,300万円
支 払 利 息	1億6,300万円	1億6,200万円
そ の 他 の 費 用	3億300万円	3億1,100万円
当 年 度 純 利 益	2億2,700万円	3億円

編集後記

水道部では、市防災訓練に併せて水道部防災訓練の実施、老朽管の定期的な更新、配水場の更新、定期的な水質検査、事務事業の見直しによる組織力の強化等、市民の皆様に安定給水を推進するための取り組みを行っています。また、鍵山浄水場の一般公開、節水パッキンの無料配布等を行い、水道についての理解や関心を高めていただくための行事も行っています。

なお、水道事業の取り組みについては、広報いるま、市のホームページ等でもお知らせをしていますので、ご意見、ご要望等ございましたら、遠慮なくお寄せください。

水道に関する情報は入間市公式ホームページhttp://www.city.iruma.saitama.jp/sumai_kurashi/jyosuido/index.htmlをご覧ください。